

日本語科 修学上のきまりと諸手続き

[授 業 日]

月曜日から金曜日までの週 5 日とする。

[授 業 時 間]

午前 9 時 10 分始業時刻とする。

授業時間は原則として次の通りとする。

- 1 時限 9 時 10 分～10 時 00 分
- 2 時限 10 時 10 分～11 時 00 分
- 3 時限 11 時 10 分～12 時 00 分
- 昼休み 12 時 00 分～ 1 時 00 分
- 4 時限 1 時 00 分～ 1 時 50 分
- 5 時限 2 時 00 分～ 2 時 50 分

* 学生は 9 時までに着席し、授業を受ける準備をする。

* 教室の使用は原則として午後 5 時までとする。午後 5 時以降の使用を希望する場合は、事前に担任に申し出て許可を得なければならない。

[遅 刻 ・ 早 退]

20 分以上の遅刻・早退は、1 授業時間数の欠席とみなす。

20 分未満の遅刻・早退は、3 回で 1 授業時間数の欠席とみなす。

* 授業時間中に一時退出した場合も遅刻・欠席とみなす。

* 台風や事故などで交通が混乱した場合は遅刻を許容する時間を学校が決定する。

[届 ・ 願]

(1) 欠席届

3 日以上 2 か月以内の欠席をする場合は、欠席届(本校所定)を教務部に届け出ること。

但し、病気による欠席は別に医師の診断書を添える。

(2) 公欠願

次の各号のいずれかに該当する者は、公欠と認め出席扱いとする。

公欠願(本校所定)に必要な印または証明書を添付して担任の印をもらい、公欠が終了後、原則として 1 週間以内に教務部に提出すること。

- | | | |
|------|-------------------------|-----|
| ① 結婚 | ／本人 | 7 日 |
| | 2 親等以内の親族 | 1 日 |
| ② 忌引 | ／1 親等の親族、配偶者、同居中の配偶者の父母 | 7 日 |
| | 2 親等 | 5 日 |

3 親等、配偶者の父母、配偶者の兄弟姉妹 3 日

*但し、自国へ帰国する場合は、別に往復日数（通常 2 日）を加算する。

*土、日、祝日は上記日数に含む。

- ③ 日時を指定された大学への出願および入試
- ④ 感染症に罹患した場合
- ⑤ 入国管理局での在留期間更新手続き
- ⑥ 本校が特に正当な理由と認めた場合

(3) 休学願

病気その他やむを得ない事情により 2 か月以上 1 か年以内休学しなければならない場合は、休学届（本校所定）に記入し、学生証を添えて教務部に提出し、学校長の許可を得ること。但し、病気による場合は別に医師の診断書を添えること。

(4) 復学願

復学しようとする場合は 1 か月前までに、復学願（本校所定）を教務部に提出し、学校長の許可を得ること。

学生は教務部の指示により学費の全額または差額を納入した後に、決められた科・クラスに復学する。

(5) 退学届

修学不可能な場合は退学届（本校所定）に学生証を添えて教務部に提出し、学校長の許可を得ること。但し、病気による場合は別に医師の診断書を添えること。

その他の添付書類は次の通りとする。

- ① 他校進学の場合・・・進学先の「入学許可書」の写し
- ② 帰国の場合・・・出国・入国スタンプが押されたパスポートのページをファックスあるいはメール等で提出する
- ③ 就職の場合・・・雇用契約書類および在留カード（就労ビザ）の写し

(6) 追試験願

追試験を受ける場合は、追試験前に追試験願（本校所定）に追試験料を添えて教務部に提出し、受験票を受け取ること。

* (1) ～ (3) の手続きが必要な学生は、担任に休みを申し出てから手続きをすること。

* (5) の手続きが必要な学生は、担任に申し出てから手続きをすること。

* (6) の手続は、担任からの指示を受けてから手続きをすること。

[除 籍]

次の各号に該当する者は除籍とする。

- ① 正当の理由がなく 1 か月以上引き続き欠席した者。
- ② 出席が常でない者。
- ③ 学業劣等で成業の見込みがないと認められる者。
- ④ 素行不良で改善の見込みのない者。

- ⑤ 学校の秩序を乱し、学生の本分に違反したと認められる者。
- ⑥ 指定日より3か月以内に学費未納の者。

[証明書の交付]

証明書の交付を受けるときは、教務部で所定の用紙に必要事項を記入し、下記の手数料の証紙を貼って、交付申請手続きを行う。交付日は申請翌日から3日後、但し英文証明書・健康診断書は5日後（土、日、祝日を除く）となるので早めに申請すること。

在 学 証 明 書	200 円
成 績 ・ 出 席 証 明 書	200 円
卒 業 見 込 証 明 書	200 円
卒 業 証 明 書	200 円
在 籍 期 間 証 明 書	200 円
推 薦 書	300 円
そ の 他 の 証 明 書	300 円
英 文 証 明 書	500 円
健 康 診 断 証 明 書	500 円

- *卒業見込み証明書は11月から発行することができる。(10月期生は翌年の11月から可)
- *出席率が不足しているために卒業できないことが判明している場合は、卒業見込証明書は発行しない。
- *証明書の内容によっては発行に通常の交付日より時間がかかることもある。

[諸手続き手順]

- 1) 諸証明書、学割の発行
学生から申請➡教務部で作成・発行➡学生にお渡し
- 2) 諸証明書のうち推薦書および他校用紙による証明書
学生から申請➡教務部で受け付け➡担任教員が作成➡教務部で発行➡学生にお渡し
- 3) 公欠願、欠席届、休学願、退学届
(担任に申し出後) 学生から申請➡教務部で記入指導
➡学生が担任教員の印をもらいに研究室へ➡学生から教務部に提出
- 4) 追試験願
(担任からの指示後) 学生から申請➡教務部で記入指導
➡学生が担任教員の印をもらいに研究室へ➡学生から教務部に提出➡学生は受験票
(届出用紙の半券) をもって試験の教室へ
- 5) 復学願
学生から申し出➡教務部で記入指導

[住所・氏名変更]

学生や保証人の住所・電話番号・氏名が変更になった時は、教務部に届け出ること。但し、学生の改姓・改名の時は、学生証に改姓・改名届を添えて教務部に提出すること。

[保証人の変更]

保証人を変更するときは、教務部に届け出ること。

[学 生 証]

学生証は本校の学生であることを証明する大切な証明書であるので、学生は常に携帯し、汚したり、紛失したりしないよう心掛けること。氏名は英文表記となる。万一、学生証を紛失したときは、他人に悪用される恐れがあるので、すみやかに教務部に届けて、再発行の手続きをすること。料金は2,000円。

[学 割 証]

学割証（学校学生・生徒旅客運賃割引証）の交付を受けるときは、所定の申請用紙に必要事項を記入の上、学生証（写真添付のもの）を提出して各自教務部へ申し込むこと。

学割証有効期間は発行日より3か月間（但し、卒業年次の学割証有効期限は3月31日）
学割証使用上の注意：

- ・JRで片道100キロメートルを超えて旅行する場合に有効。
- ・1年間に一人4枚まで利用することができる。
- ・学割証によって請求した割引普通乗車券は、この学割証の記名者以外の者は使用できない。

[通学証明書]

JR・私鉄・バス等の通学定期券は、学生証または通学証明書を提示することによって購入できる。

*学生証の裏に貼ってある「通学定期乗車券発行控」に通学区間と住所を記入すると、通学証明書の代わりになる

[定期健康診断]

年に1回、学校保健安全法に定められた定期健康診断を実施する。健康診断では胸部X線撮影と内科診察等を行う。

[教務部事務取扱時間]

月曜日～金曜日：午前9時～午後5時（祝日・学園創立記念日を除く）

電話番号 03-3299-2011

日本語科 成績評価と卒業に関するきまり

[テ ス ト]

第1条 試験は以下の通り実施する。

- (1) 各課テスト
- (2) 実力テスト
- (3) アchievementテスト（原則として、初級前期・初級終了、中級前期・中級中期・中級終了、上級1、2の修了試験）
- (4) 卒業試験（卒業時に在籍するレベルの直近のAchievementテスト）
- (5) 卒業試験共通再試験（該当者のみ）
- (6) 追試験（該当者のみ）

[成 績 評 価]

第2条 成績評価は原則として試験成績をもとに決定する。

成績評価の基準は次の通りとする。

A …… 100点～80点

B …… 79点～70点

C …… 69点～60点

F …… 59点以下

注：C以上を合格、Fを不合格とする。

[追 試 験]

第3条 以下のいずれかの理由によって第1条(3)と(4)のテストを受験しないものは、次の第5条の手続きを経ることによって、追試験が認められる。

- (1) 病気、けが（診療明細書、領収書、薬の処方箋等、病院からもらった書類のコピーを添付）
- (2) その他、学校長が正当と認めた場合。

[追 試 験 手 続]

第4条 追試験を受験する者は、所定の用紙に下記の追試験料を添えて教務部に提出し、受験票を担任教師に提出することによって追試験を受けることができる。但し、出席扱いとはならない。

追試験料は1科目1,000円とする。

[試 験 日 の 変 更]

第5条 公欠と認められた場合は、第1条(3)と(4)のテストの実施日の変更を認める。

[卒 業]

第6条 卒業資格は次の通りとする。

- (1) 入学から卒業前月末日までの総出席率が90%以上であること。
- (2) アchievementテスト・卒業試験の全科目を受験し、合格していること。

[卒業試験共通再試験]

第7条 卒業試験で不合格になった者を対象に、卒業試験共通再試験を行い、下記(1)・(2)を満たせば卒業資格を与える。

- (1) 卒業試験共通再試験に合格すること。
- (2) 入学から卒業前月末日までの総出席率が90%以上であること。

[卒業資格喪失]

第8条 次の者は卒業資格喪失となる。

- (1) 入学から卒業前月までの総出席率が90%未満の者。
- (2) Achievementテスト未受験の者。
- (3) 卒業試験未受験の者。
- (4) 卒業試験共通再試験不合格の者。

[試験の不正行為]

第9条 すべての試験の時、不正行為ありと認められた者は、その科目の成績評価は0点とする。

日本語科 BIL 学生生活マニュアル

授業について

[遅刻・欠席などについて]

- ① 日本語科は出席率が（卒業前月末まで）90%未満の人は、卒業資格喪失となります。出席率は1時限ごとに数えるので、1日休むと5時限欠席したことになります。成績が優秀であっても、出席率が90%未満だと専門学校や大学の推薦入学が出来なくなり、また学校からの推薦書も出せなくなります。その他、進学先が決まっても留学ビザの更新ができなくなるなど、出席率に関する出入国在留管理局の審査が厳しくなっています。常に90%以上を心がけるようにしてください。
- ② 日本の電車は、特に朝は毎日のように遅れますが、駅でもらえる遅延証明は認めないので、電車が遅れていても間に合う時間に家を出るようにしてください。また、授業の途中で長時間戻って来なければ、仮にトイレであっても欠席となります。
- ③ 病気・事故・個人的な用事など、どんな理由でも授業を休めば「欠席」になります。欠席するときは必ず学校に連絡をしなければいけません、連絡しても「欠席」であることには変わりはありません。ただし、学校保健安全法で定められた感染症（インフルエンザなど）は登校禁止になるため（欠席ではなく）出席の扱いになります。また、進学希望学校の受験も所定の届出をすれば「公欠」になります。所定の届出には証明書が必要になります。
- ④ 教務部では本人に現状の出席状況を教えることのみできます。「あと何日休んでも大丈夫ですか？」などの質問に答えることはできません。

[日本語科のクラス分けについて]

- ① はじめのクラスは、プレースメントテストと編入テストでみなさんの日本語の力がどのぐらいかを調べて決めますが、授業の様子によって早い時期に変わることもあります。その後もクラスはテストの結果や授業の様子によって適宜替えていきます。全体のクラス替えもあるし、数人が移動することもあります。どちらも教師の判断によって行うので必ず従ってください。
- ③ 自分の国である程度勉強した人でも、基礎が不十分な人は、もう一度はじめから勉強したほうがいいので、基礎からはじめるクラスになります。無理をして進度のはやいクラスに入ってしまうとついていけなくなるよりも、レベルにあったクラスで十分実力を発揮したほうが結果的には日本語力が向上するでしょう。

[授業やテストについて]

- ① ひらがなカタカナを覚えていないとその後の学習が大変になります。まだ覚えていない人は自分で早目に修得してください。
- ② 宿題は、授業についていくために絶対必要なものなので、必ず期限を守って提出してく

ださい。

- ③ 毎週授業のスケジュールを連絡するので、それを見て、授業の前に自宅で新しい言葉の意味を調べて教科書に記入するなどの予習をしてください。予習をすると授業がよくわかり、授業でたくさん練習できるので早く上手になります。辞書がないと予習が出来ません。どんな辞書がいいのかわからない人は先生に相談してください。
- ④ 学校で勉強した日本語を使って、クラスメイトとは同じ国の人とでもいつも日本語で話すようにしましょう。また、学校だけでは日本人と話すチャンスが少ないので、学校の外での交流の機会などに参加するなど積極的に頑張りましょう。
- ⑤ 授業中に携帯電話を使うことは原則禁止です。メッセージが自動的に出てくる設定などは集中できず授業の妨げになる場合があります。自分で授業に集中しやすい設定にしてください。辞書機能は教員の許可があれば使用出来ます。また、授業の教室風景や板書などを許可なく写真に撮ることも禁止です。ホームページやブログ、FacebookなどのSNSにクラスメイトや教師、教室風景などの写真、動画などを本人の許可なく投稿することは肖像権侵害などの問題があるのでしてはいけません。
- ⑥ 授業中に配布されるプリント類をなくした場合は、自費で再コピーしなければなりません。自分の責任でプリント類を整理し、なくさないように注意してください。
- ⑦ 日常の小さいテスト、教科書が1冊終わった後の大きいテスト（アチーブメントテスト）などは、必ず受けてください。アチーブメントテストは受けないと卒業できません。
- ⑧ どんなテストでも不正をすると、0点になります。
- ⑨ テストの結果や勉強の様子から、再試験や補習を行うことがあります。自分自身の弱点を克服する機会なので、必ず受けてください。

[教科書購入について]

- ① クラスに入ってから教科書を購入します。購入金額は一番高い人で20,000円くらいです。教科書は今回購入するもののほかに勉強が進むと次の教科書を買うこととなります。また、レベルに応じた問題集などを買うこともあります。事前に担任から連絡があるので必ず購入してください。
- ② 中級以上のクラスに編入する学生で、今回購入する教科書が少ない人もいます。クラスに入ってから先生の指示で買うものがありますので注意してください。
- ③ 一旦、先生に購入の予約をした教科書や問題集はキャンセルができません。必ず購入してください。

通学について

[自動車・バイクでの通学禁止について]

本学園では、自動車・バイクによる通学を禁止しています。

学園内あるいは路上に駐車をする、通行の妨げになり、他人に迷惑をかけることとなりますので絶対にしないようにしてください。なお、違反者は担任から警告を受けます。

[自転車の利用について]

文化学園の駐輪場を利用する場合は、必ず教務の許可を得なければなりません。また、自転車を買ったらず、防犯登録をしなければなりません。

[交通事故について]

交通事故は、事故発生後すぐに警察に報告する義務があります。交通事故に遭ってしまったら、「急いでいるから」「大したことないから」と考えずに、まず警察に事故発生を連絡して警察官の立会いを求めてください。そして、相手の住所・氏名・電話番号を必ず確認してください。

自分や相手が負傷した場合には、そのときは大ケガに感じられなくても、時間が経つと痛みが激しくなったり、後遺症が残ることもあるので、必ず病院に行き診断・治療を受けることが必要です。

禁煙について

健康増進法の改正および東京都受動喫煙防止条例に基づき、2021年4月1日に学園敷地内を全面禁煙といたしました。近隣各所にて喫煙に係る諸問題が起こっている現状により、学園の敷地内に一時的に喫煙所を再設置せざるを得ないという結論になり、2022年9月5日からH館跡地に喫煙所を設置しました。喫煙所の利用者は、注意事項・喫煙ルール等を厳守して使用してください。

禁酒について

本学園では、構内でお酒を飲むこと、学校に持って来ることを禁止しています。ノンアルコールビールも禁止です。

防犯について

[貴重品の盗難について]

学園での盗難がしばしば発生しています。学園としては、その防止につとめていますが、必ずしも成果があがっていません。そこで各自が常時十分に注意することが必要です。特に次の事項については厳守してください。

1. パソコン教室、CALL 教室等での授業の時は貴重品を携行していきましょう。
2. かばん・ハンドバッグなどの所持品を教室の机や、トイレの棚などに置いたまま離れないようにしましょう。
3. 持物には、学籍番号、氏名を記入しておきましょう。万一、盗難にあったら、ただちに教務部に届け出てください。

[宗教の勧誘禁止について]

学内での宗教の勧誘は禁止です。学内で宗教の勧誘を受けた場合は、クラス担任の先生か

教務部に連絡をしてください。

健康管理

意義ある学生生活を送るためには、健康が大切です。本校では、学生の健康管理に細心の注意を払うよう努力していますが、健康維持は、まず本人の努力によるところが多いのは、言うまでもありません。規則正しい生活を心がけましょう。

本校には医務室（A館4階）があります。医務室では急な病気やけがの応急処置および病院の紹介なども行っています。遠慮なく相談して下さい。また、学生相談室もあります。

学内美化

学園内の教室やパソコン室、CALL 教室などはお互い共通に使用する場ですから、まず「汚さず、散らかさず」を各自心がけてください。また各教室については掃除を分担し、責任をもって役割にあたってください。なお、日本では、ゴミは種類によって分別して捨てることになっています。本学園でもゴミ箱がそれぞれ分けられていますので指示に従ってください。

外国人との交流

この学校にはいろいろな国の学生がいて、それぞれ文化や習慣、宗教などが違います。お互いに違いを理解し合い、尊重しあって、楽しく勉強してください。みなさんの国の文化や習慣と日本人のものも違う部分があると思いますが、なるべく早く慣れて、勉強に集中できるように頑張ってください。

その他、困ったことは何でも教務の先生、クラスの先生に相談してください。